

現

代のクルマのほとんどはATを採用している。しかし新車であるにもかかわらず、ATが滑ってしまいうクルマも中にはあるものなのだ。

滑る理由はATフルード。ATフルードはトルク伝達や、内部の潤滑や冷却という基礎的性能だけでなく、変速制御機構への油圧供給、内部クラッチのフリクション確保など、おそろしく多機能で高性能であることが要求されるのである。しかし、日本の劣悪な交通環境のもと、ATフルードは狭いミツシオンケースのなかで常に高負荷がかかり、過熱され、劣化が進む。特に深刻なのは温度で、ATフルードも限界温度を超えると一気に性能低下が起き、それがいわゆる「滑り」となる。たとえ新品フルードを使っても、油温が限界をこえてしまえば滑りは発生してしまう。実際、「新車なのにATが滑る……」という悩みを持つオーナーは数多く存在するのだ。

今回は、そんな悩みをATフルード交換で解消できるか、これを検証してみることにした。使用するアイテムはインターセプターの高性能ATフルード「ZZ・51」。走行1万km未満のルノー・メガリスをテスト車両に選び、メーカー純正フルードとZZ・51を入れ替えて比較テストを行なった。

ZZ・51は、ニューテック・テクノロジーの中核といえる、通常のオイル粒子の10分の1という粒子の細かいベースオイルを使用しており、これが油温上昇の抑制、トルク伝達能力の向上、制御系用の油圧確保など、すべてに性能向上をもたらしている。ベースオイルの粒子が細く流動性が良いのでフリクション低減・摩擦熱減少。粒が多く並び接触点が増えるので熱伝導向上・放熱性アップ。粒同士がたぐさ結びつくとフルード自身の強度アップ・トルク伝達力向上、等々メリット多数。熱問題にも強いはずである。テストは①ハイウェイの高速走行と、



②箱根ターンバイクの上りで負荷を掛けた走行という2パターン。これをノーマルZZ・51と入れ替え、最高油温、その上昇具合、加速タイムなどを計測、体感評価も併せて比較した。果たしてフルードだけで、大きな効果が得られるのだろうか？ という疑問もあったが、しかし結果は、ZZ・51の圧勝！ 最高油温はノーマル115℃→104℃に低下。上り50→100km/h加速も、18秒81→15秒89へと大幅短縮。油圧の立ち上がりのよさから、なにしろ変速後のスピードのノリが素早い！

実際にはノーマルのピーク油温は115℃で、あと5〜10℃くらいは余裕がありそうであるし、明らかに滑り症状もなかった。しかしZZ・51へ交換後、数字上でも、体感でも明らかな性能向上が見られたのは驚いた。条件が過酷になれば、さらにZZ・51の優位性が発揮されるだろう。ATの悩みを抱えるオーナーには、インターセプターのZZ・51を試してみることを強くお勧めしたい。

ATに優しく、走行性能を大幅に高める高性能フルード。

Interceptor ZZ-51



メーカー純正オイルを凌ぐ「高性能」を謳うインターセプターのケミカルアイテム。本誌がこれまでにこなしてきたテストでは、いずれも素晴らしい結果を証明した。今回はルノー車をテストカーに選び、純正のATフルードとの比較テストを実施。果たしてその差は……。一切のヤラセなしで行なったテスト結果をとくにご覧アレ。

神藤 宏●文 text by Hiroshi Kando

森山 俊一●写真 photographs by Toshikazu Moriyama

ニューテックジャパン/ルノー渋谷箱根ターンバイク●協力
cooperation by NUTEC JAPAN ☎045-628-2055/RENAULT SHIBUYA
☎03-5790-5330/HAKONE TURNPIKE Limited.



取材協力:ルノー渋谷

- 所在地=東京都渋谷区2-20-4 ☎03-5790-5330
- 営業時間=10:00~19:00
- 定休日=第1・2月曜日/火曜日
- HP=http://www.renault-pt.com

国道246号線より、山手通り外まわりへ降りて行くときの交通至便な場所に位置する。ビル2階がガレージになっており、ここであらゆるメンテナンス、車検等の整備ができる。またメンテナンスだけでなく、カスタマイズも得意。ガレージにはかなりカスタム度の高いルノー・クリオV6が入庫しているが、そのほとんどをルノー渋谷で製作したという。



テストアイテム:インターセプターZZ-51 DF-TF

価格:2520円 内容量:1000ml

ニューテック・テクノロジーを受け継ぐ、オイル粒子の細かい(通常の10分の1)ベースオイルを採用したATフルード。あらゆる性能を高めていった結果、MTやCVT、パワステフルード、ハイドロオイルなどマルチに使用可能なフルードとして完成した。DF-TFとはダイレクトフィードトランスミッションフルードの意。温度変化による粘度変化が少なく、耐久性も一般的な市販のフルードよりも20%以上アップしている。

